

週刊 鋼構造ジャーナル

2009
5/4 NO. 1403

連刊(毎週月曜日発行) 購読料・1カ年49,500円、6カ月27,000円(税込・送料とも)。昭和55年9月26日第三種郵便物認可 発行所・株式会社 鋼構造出版 発行人・田中正幸 編集人・大庭裕 本社・東京都中央区日本橋茅場町2-2-2 三恵ビル5階 〒103-0025 電話 東京03(5642)7011(代表) FAX 03(5642)7077 大阪支社・大阪市西区西本町1-14-3 本町コスモビル 〒550-0005 電話06(6536)2601(代表) FAX 06(6536)7603 札幌支局・札幌市白石区北郷4条3丁目2-21 〒003-0834 電話011(870)7566 FAX 011(873)3626 振込銀行口座・みずほ銀行京橋支店024-1044873 郵便振替口座 東京00130-9-13713

おもな記事

- メタルワン建材安全協力会／群馬で設立5周年総会 (2面)
- 現場溶接施工会社連絡協議会／今秋発足めざす (2面)
- 米森昭夫・全構協副会長／黄綬褒章を受章 (3面)
- 全構協が全国事務局長会議／新年度事業計画など説明 (5面)
- 大手ファブトップ⑨／宮地鐵工所・縣保佑社長 (10面)

- 大手ファブトップ⑩／東京鉄骨橋梁・岡崎雅好社長 (11面)
- リベット打ち実演会で匠の世界／全国Mグレード部会 (12面)
- 連載⑦／溶融亜鉛めつき実務概論・藤村和男氏 (14、15面)
- 甲信越版 (18面)
- 中部版 (19面)
- 新鉄構企業訪問／有谷津組鉄工所(群馬県) (20面)



①李總經理から説明を受ける一行②BHの製造工程を見学③門形サブマージ溶接機④事務所前で記念撮影

華胤(厦门)鋼業有限公司を訪問

東構塾が中国研修旅行

ビルトHの製造工程を見学

東京鉄構工業協同組合が運営する若手経営者・技術者のための育成プロジェクト「東構塾」(古藤凱生塾長)は4月24～26日の3日間、中国研修旅行を実施し、福建省廈門(アモイ)市のファブリケーター、華胤(厦门)鋼業有限公司の工場などを見学した。

今回の研修は、2期4年間

にわたり塾長を務めた古藤凱

生氏が退任するに当たり「一

つの節目とする」ために企画。

来期から塾長を務める宇留野

清・前東構協事務局長はじめ、

古藤塾長は、「この機会に

東京、神奈川、長野、新潟のファブら17名が参加した。24日に訪問した「華胤(厦门)鋼業有限公司」(海湾区東孚鎮山邊路68号、李志功総經理)は、国内向けに建築用重軽量鉄骨と関連部材の設計・製造を手がける。ビルトH形鋼(月産能力2500トン)の生産を主体とし、将来的にはアジア市場への進出を狙う。東構塾一行は同社事務所で工場概要の説明を受け、3班に分かれてビルトHの組立、溶接、錆止め、塗装等のラインを見学。参加者から各工程の段取り、溶接作業、検査体制、工事請負の経緯などについて熱心に質問が出されたほか、「まわし溶接部の脚長がそろっている。隅肉溶接は日本でも通用するレベル」(柳沢章・柳澤鉄工所社長)と感心する声も聞かれた。

見学後、古藤塾長が「みんなを幸せにする会社作り」をテーマに最終講義を行い、『海外の発展に遅れを取らないよう、企業の在り方をしっかり考えてほしい』と語った。

立松鉄工(愛知)

神鋼の2アークコアボ導入

職場環境改善活動を推進中

愛知県のHグレードアワ
入社員(高卒4名 大卒1名)

立松鉄工（強富市神戸）7—21を迎え入れ、昨年に續いて瑞一、鎌田保夫社長（）は昨年場環境改善活動に取り組んで10月、神戸製鋼所製のコア溶接ロボット2アーケタイプを導入したが、順調な稼働を続けている。 同社は3年前に柱大組溶接ロボットを導入し、生産工程の合理化を念頭に置いた工場

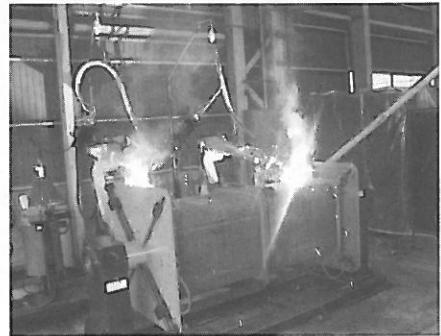
ラインの改善を敢行したなか

て「ニア溶接部分は外注依存度が高く、これらの一部解消が主な理由」（鎌田隆吉副社長）で新設備を導入した。单体でなく2アーチ化したことについては、「スピード化と手を中心とした社内体制へ移行しており、「良い人材は採

課長職の社員に対して3年以内に何らかの資格を取得することを義務化。「昨年1年は、私をリーダーとした新体制の参謀役として、課長職の社員に基本的な体制整備を進める

全衛生管理者が1週間に1度
集まつての協議など、安全対
策には万全の体制を敷く。同
対策には、愛知県鉄構工業協
同組合青年部会が作成した
『ヒヤリハット事例集』を活

Digitized by srujanika@gmail.com



導入した2アークコア溶接ロボット

定した」(同)という。

用したい』を基本に会社を動

よう指示してきたことで、目

**中
部
版**

大阪支社

1143-5500-0005

TEL 06(6536)2601

FAX 06(6536)7603

大阪市西区西本町

溶接口ボット	定した」（同）という。
年後半からの稼働状況	用したい」を基本に会社を動かしていくことが目標」で
は「70～80%程度（月	かしていいくことが目標」で
産1200～1300	「常にチャレンジを念頭に置いていた施策を講じる」という。
設備面では、コア溶接口ボット	設備面では、コア溶接口ボット

よう指示してきたことで、目標であった必要な資格取得には至らなかつたが、今年からあらためて本腰を入れてもらつている（同）と話す。

業員の意識改革に取り組み
その成果も表れている。
今後の見通しでは「現在の
稼働状況から、手持ちは3～
3・5カ月程度。材料市況の
推移も不透明で、どの価格帯
が適正かの判断が難しい。原
価意識を再度徹底させること
が重要であり、そのことを社
員一人ひとりに周知し、状況
判断を誤らないようにしてい
きたい」(同)としている。